

思考作文

作文

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図があるまで、開かないこと。
- 二、問題は、一ページに印刷してあります。
- 三、解答は、解答用紙に記入し、メモや下書きは推敲用紙を用いること。解答用紙、推敲用紙のいずれにも受験番号・氏名をもれなく、正確に記入すること。
- 四、問題冊子の表紙にも、受験番号・氏名を必ず記入すること。

受験番号

氏名

次の文章を読み、筆者がもつとも伝えたかったことはなにかをまとめ、それに対してあなたはどうか考えるのか、考えた理由もふくめ四〇〇字以上五〇〇字以内で説明しなさい。なお、文章に題名はいりません。また文章と段落の冒頭は必ず一マス空けて書くこと。

「私はロサンゼルスで、間違っただけの子どもです」。茶色の巻き毛を大きく揺らしながら若い女性が叫ぶように言った。「いまの望みは、死ぬとき、私が生まれたのは間違いじゃなかったと思えることです」。

しばらく前に横浜で、『ジャズミンタウン』という舞台を観たときの話だ。多様な生い立ちの老若男女が、脚本でなく、自分の言葉で自分を語る、不思議な試みだった。この人は何者か。女性のことが気になり、後日、取材を申し込んだ。

彼女は早稲田大学の学生だった。名前は坏恵麻さん(19)。母親は日本人で、父親はアフリカ系とドイツ系のミックスの米国人だ。大阪で育ち、高校でシカゴに移った。日本の学校では「私みたいな見た目の子」は一人だけ。米国では英語ができず、どちらでも異質だった。

母親が妊娠当初、自分を産むつもりでなかったと知ったのは10歳のころだ。家族が口論をしていたとき、おそらく彼女がいるのを忘れたのだろう。ポロッと漏れた過去の事実「あっ」と思いました。

「私は私」。そう思ってきた。いじめを受けたことは「ない」。でも、舞台に立つたら、ためた思いがあふれ出た。「なんでだろう。自分に価値があつて欲しいと思つたからかな」。困つたような笑顔で、彼女は言った。

なぜ、この世に生まれたのか。悩み続けている若者がいる。将来は、動物たちを救う仕事をしたいと思つている。その夢はきつと、かなうに違いない。間違つて生まれてきた人など、どこにもいない。

(出典 朝日新聞「天声人語」2023・8・26)